

# GX・Scope3 時代の「循環型小売インフラ」

## 斗々屋、小売と企業が参加できる循環モデル「TOTOYA Circular System」始動

### 量り売り・食品ロス削減・デポジット容器を統合 サーキュラーエコノミーを日常の購買から実装

京都でゼロ・ウェイストスーパーマーケットを運営する株式会社斗々屋（本社：京都府京都市、代表取締役：梅田温子）は、量り売り販売、食品ロス削減、デポジット容器による容器循環を組み合わせた循環型小売オペレーション「TOTOYA Circular System」の提供を開始しました。

本システムは、斗々屋が京都の実店舗で実装してきたゼロ・ウェイスト小売の仕組みを、企業や小売事業者が導入できる循環型オペレーションとして提供するものです。

量り売り販売や容器循環などの取り組みを通じて

「包装削減量」「食品ロス削減量」「容器回収率」「資源循環率」などの成果を

データとして可視化することで、企業の

- ・GX 対応
- ・Scope3 削減
- ・SSBJ 開示対応

などの環境経営にも活用することが可能です。

なお、斗々屋の店舗では量り売り販売やリユース容器の仕組みにより、プラスチックごみや可燃ごみを含む店舗からの廃棄物排出量が、同面積のコンビニエンスストアと比較して約 98%削減されています。

この実店舗で実証された循環型オペレーションを社会に広げるために開発されたのが TOTOYA Circular System です。

本モデルは 2026 年 3 月に開催された斗々屋フランチャイズモデルお披露目会にて初公開されました。

**ZERO WASTE FRANCHISE**

斗々屋  
Less Waste, More Peace  
業種を超えて、  
経済構造を変える  
全企業参加型CE実装

企業構造を進化させるサステナ経営  
ISSB / SSBJ時代へ、ICP / GHGのその先へ

日本初！環境循環型FCモデル  
CE実装型ビジネスの仕組み公開

✓ 3つのFCモデル設計公開  
✓ 実機デモ・体験型説明会  
✓ 本部伴走体制の全公開

3 / 13  
東京・大崎



## ■ 背景

### サーキュラーエコノミーは企業経営の重要テーマへ

現在、世界では**サーキュラーエコノミー（循環経済）**への移行が急速に進んでいます。

日本政府も、脱炭素と経済成長を両立させる国家戦略として **GX（グリーントランスフォーメーション）**を推進しており、今後10年間で**150兆円規模の官民投資**を進める方針を掲げています。※1

また、経済産業省が策定した“「成長志向型の資源自律経済戦略」では、**サーキュラーエコノミーは今後の重要な産業分野と位置づけられており、関連市場は日本国内で2030年に約80兆円規模に拡大する可能性**”が示されています。※2

さらに、サーキュラーエコノミーは資源制約や気候変動への対応だけでなく、資源の効率的利用や廃棄物削減を通じて **GX 推進にも寄与する経済システム**とされています。※3

このような政策・市場環境の変化により、企業にはGX対応やScope3削減など、**環境施策を実際の事業活動として実行し、数値で説明できる体制**が求められています。

しかし多くの企業では

- ・何から始めればよいのか分からない
- ・実際のオペレーションが変わらない
- ・社員の行動変容につながらない

といった課題があり、サーキュラーエコノミーを実装する具体的なモデルが不足しています。

## ■ TOTOYA Circular System

### 循環を「理念」から「オペレーション」へ

斗々屋は 2017 年の創業以来、京都でゼロ・ウェイストスーパーマーケットを運営しながら

- ・量り売り販売
- ・食品ロスを出さない店舗オペレーション
- ・デポジット容器による容器循環

などの仕組みを実店舗で実装してきました。

その経験を通じて私たちは「**循環は理念ではなく、構造にできる**」という確信を持つようになりました。TOTOYA Circular System は、こうした循環型オペレーションを**社会に広げるための実装モデル**です。

小売事業者や企業が日常の購買や消費のあり方を変えることで、社員一人ひとりの行動変容を生み出し、資源循環を実現します。

本システムでは

- ・包装削減量
- ・食品ロス削減量
- ・容器回収率
- ・資源循環率
- ・参加率

などのデータを取得し、環境施策を**理念ではなく数値で説明できる仕組み**として提供します。

---

## ■ 導入方法

本システムは以下の方法で導入可能です。

### ▶ 小売事業者向け

既存の小売事業者を対象に、斗々屋ブランドの**ゼロ・ウェイスト店舗**として導入します。

量り売り販売や食品ロス削減などの循環型小売オペレーションを実店舗で展開し、資源削減や食品ロス削減などの成果をデータとして可視化します。

### ▶ その他企業向け

企業オフィスや施設へ TOTOYA Circular System を導入し、社員の行動変容を起点にサーキュラーエコミーへの移行を進めます。

プラスチック削減量や食品ロス削減量などをデータとして可視化することで、GX や Scope3 などの制度対応において実際の成果を示すことが可能になります。

---

## ■参加企業募集

斗々屋では2026年4月より

- 斗々屋フランチャイズ加盟企業
- TOTOYA Circular System 実証導入企業

の募集を開始します。

以下を対象とした無料説明会および個別相談を受付予定です。

- 小売事業者
- 企業GX担当者
- 商業施設
- 自治体関係者

※実証導入は**数社限定**

先行導入企業は、循環型ビジネスの先行事例として今後の市場形成をリードする可能性があります。

### ▼説明会案内・メール登録

<https://totoya-zero-waste-fc.studio.site/>

上記URLよりメール登録された方へ優先的にご案内いたします。

---

## 会社概要

株式会社斗々屋

所在地：京都府京都市出水町252 大澤事務所ビル1F

代表取締役社長：梅田温子

株式会社斗々屋は京都でゼロ・ウェイストスーパーマーケットを運営し、量り売り販売、食品ロス削減、容器循環などの循環型小売モデルを実装してきました。

2017年の創業以来、「地球1個分の暮らし」の実現を理念に掲げ、ゼロ・ウェイストの買い物体験を通じてサーキュラーエコノミーの社会実装を進めています。

現在は小売事業に加え、フランチャイズ展開や企業向け循環システムの提供を通じて、循環型ビジネスモデルの普及を目指しています。

コーポレートサイト：<https://totoya-zero-waste.com/>

---

## ■本件に関する問い合わせ

株式会社斗々屋 広報担当 清藤

Email：[info@zerowaste.co.jp](mailto:info@zerowaste.co.jp)

TEL：075-221-8282

## ■ 参考資料

※ 1

経済産業省「GX（グリーン転換）政策」

[https://www.meti.go.jp/policy/energy\\_environment/global\\_warming/](https://www.meti.go.jp/policy/energy_environment/global_warming/)

※ 2

経済産業省「成長志向型の資源自律経済戦略」

<https://www.meti.go.jp/press/2022/03/20230331010/20230331010.html>

※ 3

資源エネルギー庁「サーキュラーエコノミーの推進」

[https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/circular\\_economy\\_01.html](https://www.enecho.meti.go.jp/about/special/johoteikyo/circular_economy_01.html)